



もくじ

川柳	2
新しい生活・柳家三三さん	3
長寿園の文化「お茶会」の変遷	4
短歌・祝百歳	5
長寿園の日々	6

長寿園理念

「人生の目的は円満幸福の生活にある」との信念に基づき、高齢者がそれぞれ円満で幸福な生活ができるよう所要の協力と支援を行うことにより、社会に貢献します。

【発行所】
一般財団法人 長寿会
 小田原市入生田475
 TEL.0465-24-0002(代)
 発行人/加藤伸一
 編集/「夢」編集委員会

入生田に住む

入居者 卯月 修吾



長寿園様(以後敬称略)の六〇年に至る社会貢献に敬意を表すと共に益々のご発展を祈念します。

私は居住者のうち自宅が最も近い者として長寿園創設当初の入生田の様子などについて、古老に聞いたことを含め記憶を辿って見たいと思います(歴史家でもないので聞き違いがあるかも)。

私が入生田に住んだのは、昭和二九年からで長寿園と同じ六〇年が経過しました。当時の国道筋(新道と云う)は人家も疎で水田が蓮華草で埋まり、旧道

筋は格子戸の家が並び、一時は町並保存地区の指定を受けようかとの声も出るほど昔の名残がありました。紹太寺附近は亭々と大木が聳え、夜遅く歸ると蛍やムササビがとび、梟の声がするなど閑静な地でした。又、西端は岳南荘が厳しく門を閉じて

いました。在住の方々は兼業農家が多く、当時は蜜柑の景気が良く、山の中腹迄蜜柑畑が広がり、収穫時は手伝いの人々が多数来られ賑やかでした(江戸時代は耕地が少なく馬子等の副業が多かった様です。馬子唄の名人が居られ、ある会合でその息子達と同席した際、保存会など後継者について話が出ましたが「あれは到底真似出来ない」としり込みするばかりで、名人の死去と共に残念乍ら絶えました)。

長興山紹太寺は徳川三代将軍家光の乳母春日局がその威光により、子の稲葉正勝、又その子の正則が老中にも就く程の有力大名となり、大久保氏の失脚後(稲葉氏の移封後再び小田原城主となる)小田原城主に封ぜられ、菩提寺として壮大な伽藍を建設し、広大な土地を境内とし

〈次ページに続く〉

ました。その境界は山の中腹迄の山地一帯であり、蜜柑畑はその一部です。

長寿園はその中心に近い所です。又境内には多数の塔頭があり、古い茅葺の家が数件残り、紹太寺の本堂もその一つです。本堂の前面にある「長興山」の額は日本黄檗宗開祖の隠元禪師の筆と言われています(茅葺きの家は紹太寺本堂を除き全部消滅しました。又、稲葉氏は幕府最後の老中と言われた淀城主でした)。

長寿園の地下附近には湯本用水が暗渠として流れています。早川の水を引き、小田原の山麓地帯の水田を潤すもので、入生田にも分水され水源となっていました。水田の消滅とともにその使命も終わった様です(荻窪用水とも言われ終点荻窪にはメダカの里があります)。江戸時代としては大工事でした。

長寿園の創設については山中に老人の家が出来たとは聞きました。噂程度で、あんな山の中にも思う程でした。当時は車もなく山路で、附近は戦時疎開のための分譲地と聞きました。が、蜜柑畑と数軒の家が点在

(現在はすべて消滅し山林となつています)するのみの不便な地で、先代様のご苦労が偲ばれます。

その後時代の変換とともに町並みは変わり(地球博が出来てから急速に変化しました)蜜やムササビ、梟等も次第に姿を消しました(蜜を復活させようと努力された方も居りましたが不成功だったようです)。山中腹迄広がった蜜柑畑も不便な所から次第に縮小されていきます。

長寿園も発展され多くの建物が建設されましたが、地区の住民にとっては地域が発展し、又、互いに平穩に暮らして行ければ、良いのではないと思う程度で、どのような方々が、どのように暮らしているかについては全然知らず無関心のようにでした。自治会の常会に出席しても建設の説明を承ることがあるという程度でした。

私は平成九年に妻を亡くし、亡妻の遺志を継ぎ妙力寺を引き受けることになりました。毎日通う路で外観は知っていても、内容は分からず老人福祉施設の制度も知りませんでした。想定

外に長生きし、九〇歳も近くなつたので、運転免許を返納しなければと思ひ、生活設計の変更には迫られました。途中の老人ホームはどうかと思ひ、調査に訪れたのが初めてです。家族とともに内部を見学させていただき様々の条件等を承り、又、幸いにも空室があるとのことで入居させて頂くことになりました。入居して見ますと職員の方々が親切であり、幹部の方々が率先して業務を遂行して居られる

誠実な運営に感心しました。自宅の近くにこのような立派で誠実な、私の期待・希望に沿ったホームがあり、お世話になることが出来た幸運に感謝しております。

入居後、種々病気を発症し、手数をおかけしましたが、高齢で残年も少ないと思ひますので、これ迄通りお世話頂き度くお願いしつゝ、摺筆します。

川柳

- 百歳を目指して今日の深呼吸 田中 和子
- 寝過ごせば今日のスケジュールに追われ
- 痛い腰なだめなだめて今日も暮れ 青木 千代
- 春風を待たずに友の計報聞く
- アルバムを繰れば思ひ出はじけ出る 竹中 糸子
- ショッピング時を忘れたのは昔
- 春風の始発で咲いたイヌフグリ 小池 怜子
- 雑学の立ち読み脳へインプット
- 一日が始まるヨイショどっこいしょ 田川 富子
- さよならの後メールの送受信

両親が、ここにお世話になり始めて八ヶ月が過ぎました。やっと、ここでの生活に慣れてきた様に思います。年を重ねていく父と母が2人で自宅で暮らす毎日に何かあったら...と、心配な気持ちで私達子供達も暮らしていました。そして、父と母もそろそろ、どこか良いホームを探してみようかという事で話しが進んでいきました。ホーム探しは難しいと聞いていましたが、私の姉と両親が訪ねたこの場所は、スタッフの方々の対応がとてもよく、その雰囲気安心を覚えた様です。

それから、すぐにここに決め、新しい場所での生活の準備に追われました。

兄、姉、私達、家族が皆で手伝い、入居するまで、とても早く感じました。

入居後はヘルパーさん方の手

新しい生活

伊野様ご夫婦ご家族

を借りる事になかなか慣れず、生活のペースをつかむのに大変な様子でしたが、今ではすっかりヘルパーさん方との信頼関係を築けたようで、落ち着いた日々を過ごしている事に安心しています。

今は毎回、父母に会いに来るたびに穏やかな部屋の空気が心地良く、ベッドを借りて「ごろん」と横になると、ついうとうとお昼寝タイムとなつてしまします。

これもひとえにスタッフの方々の笑顔と心遣いのおかげと感謝しています。

これからも色々とお世話になる事と申しますが、どうぞよろしくお願致します。



小田原出身の落語家

小池怜子
(入居者)



さんざ 柳家 三三さん

小田原市出身、小学一年の時、初めてテレビで落語を見て、興味を持ち中学生になって、東京の寄席へ通いはじめ、落語家になりたい、と二年生の時十代目柳家小三治に頼みに行った。「高校ぐらい出なくちゃ」と、断られ小田原高校へ。卒業後、再度小三治の門を叩き、入門を許される。三十一歳で真打になる。＝ウィキペディアより＝

入居して間もない頃、南足柄市の文化会館での落語会の案内を目にして行ってみました。会場は満員、熱演の三三さんに、地元の熱い拍手がひと際大きく響きました。その後、小田原の市民会館大ホール、小田原駅西口の公民館、と案内が来ると出かけました。公民館では、真夏の炎天下、日傘をさして並び、満員の会場は、扇風機が回るだけ、でも午前、午後超満員、熱演に盛り上がり、大満足の会場でした。

現在、大活躍の三三さん、地元小田原を大切にファンを沸かせています。小田原市民会館大ホールの落語会は、初春と夏、定期的に行っています。壽庵等で前売り券発売します。





長寿園が昭和五三年に新館オープンした際にお茶室ができました。その頃は、有料老人ホームは自立した高齢者の入居するところというのが当たり前で、どこのホームにもお茶室がありました。バブル景気に向かうと、新しいホームのお茶室はほとんど立派になり、中庭に別作るところも出てきました。

長寿園の文化 「お茶会」の変遷

理事長

加藤伸一



当時から、茶道をする方が特に有料老人ホームに多く入居するということでもなかったのですが、不思議なことでした。ところが、どこも、流派や流儀の問題でご入居者がまとまらず、開店休業の状態でした。

さて、長寿園では初期のころは、五、六名の方が中心になり、定期的にお茶会が催されました。みなさん着物をめされ、当然正座でお点前が練り広げられました。私は二〇代でしたが、毎回出席させていただいておりましたので、だいたいのお茶の作法を教わることができました。これはしばらく続きましたが、残念ながらみなさん年齢をとられ、正座が難しくなりついに長寿園でも開店休業状態になってしまいました。その後、お茶室は麻雀室になったり、囲碁室となったりしてしま

いました。

平成一八年、食堂を大改装した際に、お茶室がそのままであるのを何とかしたいと思い、ご入居者でお茶をやる方に復活できないだろうかとかとご相談したところ、表千家と裏千家のそれぞれの教室をやられていた方ともうおひとりがありました。とおっしゃってくださいました。条件は理事長が毎回中に入って音頭をとるということでした。形式はみなさん座れないので立礼で形式にとらわれないということに決まりました。予算もないので私が山から竹を切ってきてそれらしい立礼台を作りました。お茶室の名前も公募の結果新たに「桜寿亭」と決まり、入り口にはご入居者に書いていただいた室名板を掲げました。それから数年間、毎月お茶会は開かれ、多くの人がお茶を楽しみました。

しかし、やはり、その方々も高齢になり、着物を着るのも大変だということで、終了となってしまいました。平成二六年の長寿園六〇周年の記念祝宴の時にどうしてもご入居者の点てるお茶をお客様にお出しした

く、あたらしいご入居者でお茶をたしなむ方をお願いをしました。すると、快くお引き受け下さり、祝宴当日はりっぱなお茶席ができました。そして、備品も整え、平成二七年に新たなお茶会が発足したのです。時代が変わってもこんなにお茶を楽しまれる方がおられるのかと思うほど毎回多数の方が参加しておられます。



毎月変わるお軸とお花を觀賞し季節ごとのお菓子をいただき、折々のお茶碗で一服させていただきます。日本文化が伝わり心が豊かになります。そんな長寿園のお茶会を皆様にお伝えたいです。



短歌

鈴木芳子

老の園茶道たしなむ
はらからと心かよひて

ひととき楽し

カナダより帰国の孫ら

心身の成長早し

話題も楽し

女子会と誰か名付けて
夕食後編み物しつつ

和むひととき

中澤志づ江

陽だまりに
ひらくスマイルの愛らしさ
春が来たねとほほ笑み交わす

竜の鬚

小花のあとに結ぶ実の
黒光りするその逞しさ

小池怜子

物忘れ笑い話のうちが花
ドキッとしつつ

自覚する老い

モノクロのアルバムの束

捨て難くそれでも何時か

捨てねばならぬ

田川富子

考える人のポーズが
良いと言うテレビから得た

トイレ情報

晴れた日の

「こだま」の車窓へ浮かぶ富士
病院通い励ます様に



祝百歳

「夢」編集委員会

昭和六十一年にご入居された大下様が五月六日に百歳を迎えられました。

入居当時から「仲間と一

緒にお出かけしたり、楽しかったわ」とお話しされC棟に移られてからも、お部屋から桜の木を眺め「景色が良いところね」と長寿園に入居し三〇年。穏やかな時間を過ごされております。



小田原市市長、大下様、理事長

募集しています

「短歌・俳句・川柳」



「夢」に掲載する短歌・俳句・川柳を募集しています。次回発行は八月です。締め切りは六月末日になります。ご協力いただける方は受付までお申し付けください。よろしくお願ひ致します。



ショートコース

長寿園の日々



入職式

四月一日 長寿園新卒職員入職式
 四月六日 春の行楽ショートコース
 四月一二日 春の行楽ロングコース



ショートコース



ロングコース

長興山お花見



ロングコース



桜の季節も終わり初夏の風が気持ち良い季節になりました。新年度を迎えましたが夢編集委員メンバーは昨年度に引き続きより楽しい誌面を作成していけたらと思っております。今年度もよろしくお祈りします。

編集後記



夢編集委員会



國分ヘルパーと松本課長

生活課の國分ヘルパーが高校を卒業してから九年が過ぎ、今年の四月で一〇年目を迎えました。

おめでとう
 長寿園一筋一〇年目
 「夢」編集委員会